

木田市長の



vol.53

ごみを捨てる人、拾う人

2月13日、「伊勢志摩地域ごみゼロ推進交流会・講演会」が、鳥羽市で開催されました。現代社会の大きな問題であるごみ問題をなんとか解決していきたいという意識の高い人たちが多く集まりました。一方で、日課であるかのごとく、車の中から道路へごみを捨てていく人がいることもまた事実です。自分さえば捨てる人、誰かがごみを拾い集めてきれいにしてくれる人でも考えているのでしょうか。

7であろうと、命に関わるような被害はほとんど考えられないわけでは、ビルが高くなればなるほど、橋が大きくなればなるほど、万が一のときの被害は甚大になります。同じようにごみ問題も文明の進化とともに深刻になってきたように思います。江戸時代までの日本は、米生産の副産物である「わら」を使う文化だったと思います。わらじなどの履物から、みなどの雨具、むしろ、縄などありとあらゆるものが、わらを材料として作られました。外国でさまざまなものが発明されていく中で、日本人はわらを使うことしか能がなかったのかと、何か情けないように思ったこともありました。

しかし、よく考えてみると、わらの文化は、ごみを出しません。川や海へ流れても、その辺りに捨ててあっても、わらは腐ってしまっても害にはなりません。まさに自然循環の文化であったといえます。文明が進んで、現在では、ごみもプラスチックや塩化ビニールなど腐らないものも多くなり、化学物質や環境ホルモンなど自然を破壊するごみが多く出現しました。地震と同じように、ごみに関しても人類が自分で被害を大きくしているといえるでしょう。人類の生活をおびやかすごみ問題に対して、真剣に考えようというのが、今回の交流会です。会場となった戸田家は、普段からごみ問題に取り組む先進企業として有名です。鳥羽には、リサイクルパークを運営する「NPOとばりサイクルネットワーク」や海をきれいにしてくれている「きれいな伊勢志摩づくり連絡会議」など他市から多くの視察があるほど活躍している団体もあります。市民みんなが「ごみを出さない」「ごみを拾う人」の意識を持つことが大切ではないでしょうか。

人権文化の花を咲かせよう
Vol.92

人権講演会を開催します

山田パンダさんをお迎えし、3月20日(土)に第28回鳥羽市人権講演会を開催します。みなさんご存じかと思いますが、山田さんは、南こうせつさん、伊勢正三さんとともにフォークグループ『かぐや姫』を結成し、数々のヒット作品を世に送り続けています。今回の講演では、「生命の尊さをみつめよう」と題し、大人と子どもが、同じ輪の中で互いの生命を見守り合うことの大切さを重点的にお話しいただく予定です。

最近の子どもたちを取り巻く環境は、いじめ、虐待、自殺など悲惨な出来事が、あまりにも多すぎるように感じます。そこで、これからは、地域の大人たちが力を合わせ、子どもたちを守っていくことが、ますます重要となっていくのではないのでしょうか。例えば、大人と子どもが一緒にあって、地域の行事に参加することにより、子どもたちは、大人がいつもそばにいてくれるという安心感を持つことができるでしょう。そして、何よりもその大人の存在を知ってもらうことが、子どもとのつながりを作り、それが大きな輪となつて広がっていくはずで、そのつながりから、大人たちも地元のごどもたちの顔を知ることが可能となつてきます。大人と子どもがお互いに生命を見守り合うと聞くと、何か大きなことのように感じてしまいがちですが、少しずつでもしっかりとお互いが結びついていけば、共に支え合い、見守り合える優しい気持ちの輪が広がっていく、それが生命を見守り合うことへの第一歩だと思えます。

講演会の詳細については、今号と一緒に配布するチラシをご覧ください。みなさまの参加をお待ちしています。